

# アイデンティティ永続化を含むエンドポイント向け Cisco AMP の導入

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[作業の流れ](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連資料](#)

[Cisco サポート コミュニティ - 特集対話](#)

## 概要

エンドポイントのための識別永続性機能 on Cisco AMP はコンピュータが仮想マシンがイメージ変更されるか、または転用されるときコンピュータ オブジェクト UUID (ユニバーサル固有の識別番号) が再使用されるようにします。これはダッシュボードの重複したコンピュータ オブジェクトを作成することを防ぎそれらのコンピュータ オブジェクトの隣接するデータを維持します。これはまたエンドポイント コネクタを維持し、データの継続を提供し、チェックでライセンス数の保存を助けます。

## 前提条件

### 要件

- エンドポイント ダッシュボードのための Cisco AMP へのアクセス。
- 最初にコネクタを配置する前に識別永続性を設定して下さい。
- 識別永続性はウィンドウズオペレーティングシステムだけでサポートされます。

注: 識別永続性機能は連絡 Cisco TAC によって有効にする必要があります。

### 使用するコンポーネント

- エンドポイント ダッシュボードのための Cisco AMP

## 作業の流れ

識別永続性オプションはこれがイネーブルのとき次の作業の流れを使用します:

1. 識別永続性オプションはポリシーで設定されます。

2. エンドポイント インストーラのための AMP はダッシュボードから生成され、新しいコンピュータが仮想マシンで展開されます。
3. 新しいコンピュータ オブジェクトは UUID および識別永続性フラグで作成されます。

**登録 チェック:** コネクタ サービスが開始するとき、クラウド登録 チェックは実行された。登録 チェックは現在のマシン、のような、ホスト名および MAC アドレスの情報を評価します。それはまたクラウドに対して新しい UUID が生成される必要があったかどうか確認するためにポリシーの識別持続 の 設定を評価します。

**登録 基準:** コンピュータ オブジェクトに使用される識別持続 の 設定に相当して非表示フラグが設定があります。固有の情報と共にこのフラグが、( ホスト名か MAC アドレス ) 条件を満たすあらゆるマシンに既存の UUID を提供するのに使用されています。マシンのフラグおよび固有の情報があらゆる既存のコンピュータ オブジェクトと一致する場合、新しい UUID およびオブジェクトはマシンのために生成されます。

**注:** ホスト名を使用するとき、完全修飾ドメイン名 ( FQDN ) は使用されます。名付けられるマシンおよび `test.domain.com` 名付けられる別のマシンがある場合一致するし、UUID は再使用されません。

**コンピュータを移動する方法:** 異なる識別持続 の 設定を持つグループの間でコンピュータを移動することは重複を作成します。各識別持続 の 設定と関連付けられるこれは非表示 フラグが原因です。設定が一致するとき、重複は生成されます。グループは両方ともポリシー設定を渡ってを使用した場合同じポリシーを適用してもらわなければなりません。設定が同じならば、ポリシーが異なっていれば、重複は作成されます。

**注:** クローンとして作りたいと思うかまたはエンドポイントのための Cisco AMP のコンピュータがインストールしたイメージ、[この資料](#)を読んで下さい。

**MAC アドレス選択:** マシンは複数のMACアドレスを備えるかもしれませんが、手動で コネクタ登録の間に MAC アドレス 選択プロセスに影響を及ぼすことはできません。、他では使用すればホスト名をマシンに 1 つの MAC アドレスがあるただことを保証できるときだけ MAC アドレス設定を使用する必要があります。

**デフォルト グループ:** 識別永続性はまたデフォルト グループに適用されるポリシーのために設定する必要があります。ポリシーがグループがアクティブなマシンによって削除されれば、マシンはデフォルト グループに登録 チェックが次の時間実行されたとき置かれます。識別永続性がデフォルト グループのために設定されない場合、重複オブジェクトは生成されます。

**注:** 場合によってはクローンとして作られた仮想マシンはからクローンとして作られたグループよりもむしろデフォルト グループに置かれるかもしれません。これが発生する場合、FireAMP コンソールの正しいグループに仮想マシンを移動して下さい。

## 設定

識別永続性のコネクタを配置するために下記のステップに従って下さい:

**ステップ 1:** ポリシーに望ましい識別持続 の 設定を加えて下さい:

- [Management] > [Policies] に移動します。
- 望ましいポリシーを選択して下さい。 [Edit] をクリックします。

- **General** タブに行ってください。それは、デフォルトで選択されます。
- **コネクタ識別永続性**を選択してください。 **識別同期**は現われます廃棄します。

## ◀ Edit Policy: Test

Policy for FireAMP Windows

Name	<input type="text" value="Test"/>
Simple Custom Detections	<input type="text" value="None"/>
Advanced Custom Detections	<input type="text" value="None"/>
Application Blocking	<input type="text" value="None"/>
Application Whitelist	<input type="text" value="None"/>
Exclusion Set	<input type="text" value="None"/>
IP Blacklists & Whitelists	<input type="button" value="✎ Edit"/>
Description	<div style="border: 1px solid #ccc; height: 100px;"></div>

General | File | Network

---

**Administrative Features** ▶

**Connector Identity Persistence** ▶

Identity Synchronization	<input type="text" value="None"/>
--------------------------	-----------------------------------

**Client User Interface** ▶

**Proxy Settings** ▶

**Product Updates** ▶

None

None

By MAC Address across Business

By MAC Address across Policy

By Host name across Business

By Host name across Policy

注: 機能を有効にすること後各マシンのために生成されるべきエンドポイント原因重複したオブジェクトのインストール。

環境のための推奨である **Identity 同期** オプションを選択して下さい。次のオプションを使用できます。

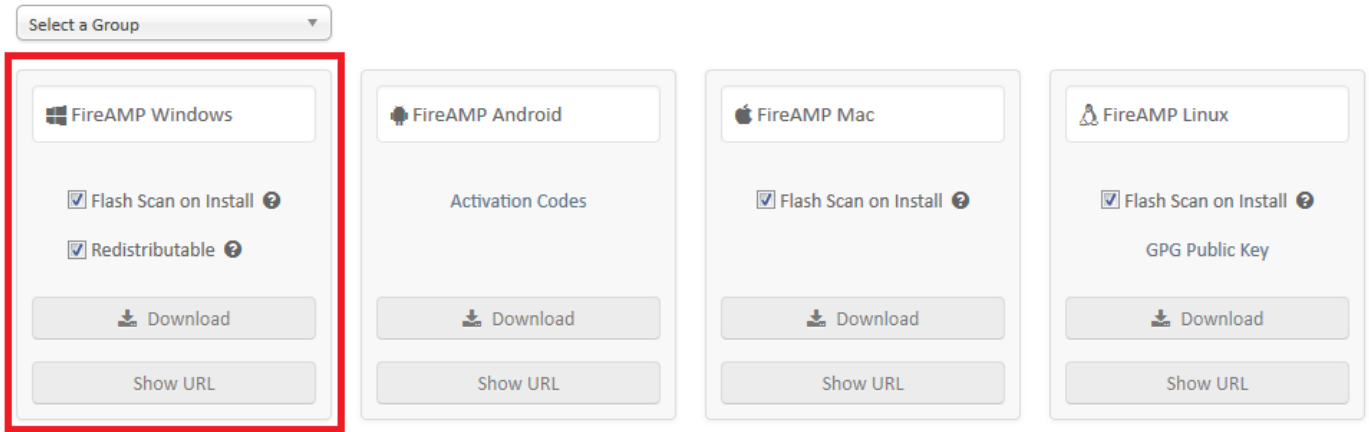
- **None** : 機能は有効になりません。コネクタ UUIDs はあらゆる状況のもとで新しいコネクタによってインストールします同期されません。各々の新しいインストールは新しいマシンオブジェクトを生成します。
- **ビジネスを渡る MAC アドレスによって**: 新しいコネクタはどれも以外値に設定される識別同期がないビジネスのすべてのポリシーを渡って同期するべき同じ MAC アドレスがある最新コネクタを探します。選択されたとき、マシン オブジェクトは全体のアカウントを渡るその MAC アドレスを使用するあらゆるマシンによって同期するために作成され、フラグを付けられます。
- **ポリシーを渡る MAC アドレスによって**: 新しいコネクタは同じポリシーの内だと同期するべき同じ MAC アドレスがある最新コネクタを探します。選択されたとき、マシン オブジェクトはその MAC アドレスを使用する割り当てられます特定のポリシーに対して登録済みを作成され、フラグを付けられ、あらゆるマシンによって同期するために。
- **ビジネスを渡るホスト名によって**: 新しいコネクタはどれも以外値に設定される識別同期がないビジネスのすべてのポリシーを渡ってと同期するべき同じホスト名を備えている最新コネクタを探します。選択されたとき、マシン オブジェクトは全体のアカウントを渡るそのホスト名を使用するあらゆるマシンによって同期するために作成され、フラグを付けられます。  
注: 識別永続性を使用するために選択する場合 Cisco は**ビジネスを渡るホスト名によって**を使用することを推奨します。マシンは 1 ホスト名を備えていたり、複数の MAC アドレスを持つかもしれません。ビジネスを渡って設定によって、それはオブジェクトをポリシーごとによりもむしろグローバルに利用できるようにすることによって設定の複雑な状況を簡素化します。
- **ポリシーを渡るホスト名によって**: 新しいコネクタは同じポリシーの内だと同期するべき同じホスト名を備えている最新コネクタを探します。選択されたとき、マシン オブジェクトは作成され、あらゆるマシンに同期するためにフラグを付けられ、そのホスト名を使用する特定のポリシーに登録されています。

**ステップ 2**: クラウド ダッシュボードからインストール パッケージをダウンロードして下さい:

- **管理 > ダウンロード** コネクタへのナビゲート。
- 望ましいグループ名およびオプションを選択して下さい。
- [Download] をクリックします。
- サードパーティ 配置ソフトウェアのために **Redistributable**、か **オフ・ライン** インストールを使用して下さい。

注: Cisco はサードパーティ 配置ソフトウェアを使用してパッケージの作成かインストールをサポートしません。

## Download Connector



3. 組織のマシンにコネクタを配置して下さい。

## 確認

識別永続性がはたらいっているかどうか確認するために、下記のようにステップに従って下さい:

1. コンピュータ オブジェクトを生成するために識別同期のためにフラグを付けられるコネクタをインストールして下さい。
2. オブジェクトが作成された後インストール ディレクトリ C:\Program Files\Sourcefire\fireAMP\local.xml の local.xml から <uuid> のメモを作って下さい 次と同じような行を見るはずです:

```
<uuid>1234567890-abcd-efgh-ijkl-mnopqrst</uuid>
```

3. その後コネクタをアンインストールして下さい。インストールパスから取除かれるすべてのファイルを持つために『No』を選択して下さい。
4. PC をリブートし、前と同じパッケージとのエンドポイントのための AMP を再インストールして下さい。
5. 上記のステップごとの local.xml 再度チェックし、確かめて下さいオリジナル local.xmlfile からの UUID と一致することを

## トラブルシューティング

- インストール パッケージおよび識別持続 の 設定が一貫していることを確かめて下さい。
- 識別永続性配置後を有効にし、有効になる識別永続性なしでコネクタをインストールすればのにより古いパッケージを使用すればコネクタは登録する生成し、現在の設定とのポリシーをアップデートしますと同時に重複を。
- マシンが UUID を共有するようである場合固有の情報を共有していない仮想化された環境内の MAC アドレスのようなことを、確かめて下さい。

## 関連資料